

# 県社協のひろば

## 福祉のまちづくり「日常生活圏域からの発信を

去る三月十六日、県・本会共催で「日常生活圏域活動実践交流会」を開催し、(会場…県社会福祉会館) 地区社協関係者、民生委員児童委員のほか、地域で住民活動にかかわる人、学生、施設・行政・社協職員等、二百二十二人の方々が参加しました。

午前のシンポジウムは「まちづくりへの市民参画を考えるー福祉のまちづくりに、日常生活圏域からの発信をー」と題し、コーディネーターの神奈川大学・横倉節夫教授の進行により、様々な分野で活躍する方々にご発表いただきました。

シンポジストのひとり、知的障害の子をもつ飯嶋和子さんからは「これまでの地域福祉の計画には、なぜ障害当事者の声がないのか」という疑問をもとに、アンケートや住民懇談会などきめ細かな



シンポジウムのようす

取り組みをとおして一人ひとりの声を大事にすすめた、三浦市地域福祉活動計画策定の取り組み。そして、計画の実現に向けて、住民の声をもとに行政、関係機関等が協働して、しくみ・ものをつくっていく大切さ。平塚市地域福祉計画策定委員・NPO法人「ひなたぼっこ」代表の大見京子さんからは、計画策定にかかわる住民主体のワークショップと、策定委員会との両方の参加を通して感じた「地域福祉」の奥行きと深さと分りにくさ、だからこそ計画策定後も、住民、行政、関係機関等々、皆が自分のこととして考え、議論し続けていくことが大切だということ。大和市保健福祉部福祉総務課の山本春美さんは、地域福祉計画策定担当の立場から、今回の計画を、地域に何が必要か、住民、行政、関係機関等がどう役割分担するべきか、共に考えるきっかけとして活用し、次につなげていくことが課題と話されました。

「地域福祉」という言葉は以前からありますが、本来の意味で住民が主体的に参加し、築いていく地域福祉は、今始まったばかり。行政も住民も、様々な団体や組織それぞれがこれまでのあり方を見直し、課題を共有化して、皆で論議して作りあげていくことの大切さを確かめました。

午後は、住民流福祉総合研究所の木原孝久さんをむかえ、改めて小地域活動の意味合いや活動方策を考えた「基礎講座」のほか、地域における様々な課題を話し合う三つのテーマ別分科会が行われました。今回の概要は、後日、報告書としてまとめる予定です。

(地域活動支援課)

## 本会人事異動 (4月1日付)

**事務局長**・平本邦夫

**総務企画部** 米倉孝治 (部長)

**総務企画部付** 伏見美幸、島村俊夫、飯島信彦

**総務課** 鈴木和夫 (課長、山崎忍)

**地域福祉部** 山口正一 (部長兼かながわ長寿社会開発センター所長)

**社会福祉事業課** 加藤明成

**地域活動支援課** 野地郁年 (課長、新井隆、菊地隆雄)

**生活支援担当** 佐清信一郎 (担当課長)

**かながわ長寿社会開発センター** 相場秀男

**かながわ福祉人材研修センター**

**福祉人材課** 佐藤光洋 (課長、齋藤昭、鈴木雅彦)

**研修研究課** 奥田祥子

**かながわともしびセンター**

**バリアフリー普及課** 木村善光


**かながわ権利擁護相談センター** 相生正弘 (所長、金山京子)

**かながわ福祉サービス運営適正化委員会** 山本時雄 (事務局長、小野真由美)

**退職者** 清水勝夫、川田篤、亀田長、池沢公利、小野寺敏博

※常勤職員のみ

## 本会常務理事就任あいさつ



**鈴木勝也**

この度、県社協常務理事の職を担わせていただくことになりました。時代の変化に対応した県社協の役割が厳しく問われている中、会員並びに関係者のご指導を得て重責を果たしてまいりたく、よろしくお願ひ申し上げます。